

# 調布市【街づくり検討委】中間報告会参加報告

平成20年7月5日(土) 文化会館「たづくり」にて

参加者 ホ号棟理事 秋谷 徹雄

「地域別街づくり」の中間報告会が開かれました。これは「住み続けたい緑に つつまれた調布」の具体化に向け、東西南北各地域で市民検討委員会（平成19年7月発 足）がこれまでにやってきた一年間の内容の中間報告の集会でした。

事務局は調布市都市整備部まちづくり推進課があたっていて、当日の進行役を勤め ていました。

最初に市を代表して河野副市長より当日の報告会の 概要、第一に地域別の報告、第二に特別講演、第三にパネ ルディスカッション、の三つについての提案説明があり、 それをうけて報告会が進行されました。

第一は各地域からの検討委員会報告がありました。

東部地域は三つのチーム（ピラミッド・ハイテンシ ョン・パンプキン）が仙川、つつじヶ丘、野川・入 間川を中心とした街あるきを体験、その体験からの 課題、目標について報告。

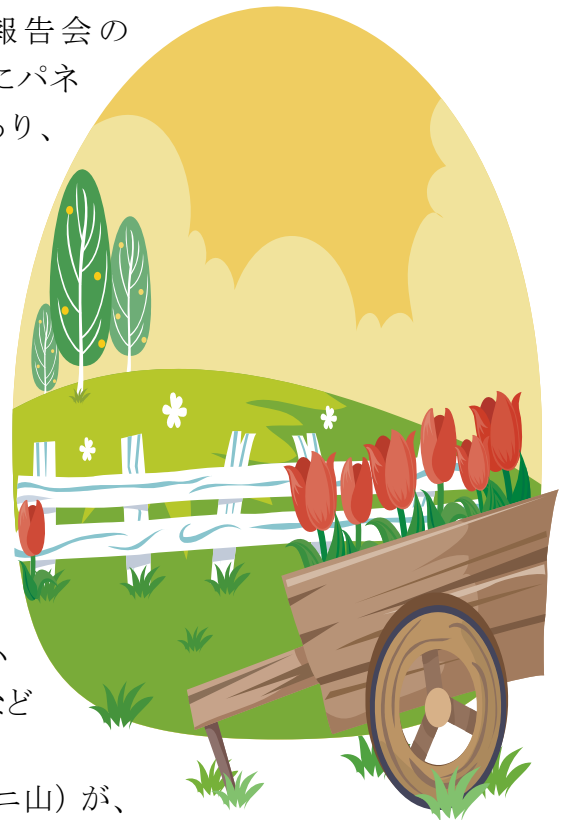
西部地域は同じく三つのチーム（さんかく・メジ ロ・スタジアム）が府中市境の多摩川、西調布駅周 辺、飛田給・スタジアムを中心に街歩きを実施し、 環境、交通等の施設、目標について報告。

南部地域からは同じく三チーム（けやき・視覚・ロケハ ン）が報告、調布駅南口開発係、自然景観、福祉施設など について広く見てまわり、その検討結果を述べました。

北部地域は同じく三チーム（さくら会・ミドリ・カニ山）が、 佐須街道、原山通り、高層マンション、清掃工場、深大寺自然広場など、地域の特性 を詳細に点検、その現状をふまえた内容を報告。

各地域のそれぞれの報告とも時間的に十分ではなかったが、要領を得た内容の報告 であった。

次いで第二部は「市民参画」による特別講演がありました。大橋氏は調布街づくり 審査会会長、調布市都市計画審議会委員であり、(株)まちづくり工房代表取締役の 方です。





大橋氏は都市計画での市民参加、参画の必要性、それによって、まちづくり、まち育て、まち成熟化がすすむこと、また多様な分野での活性化、ハードインフラ、ソフトインフラまで広範囲に及ぶことを主張しました。

そして、その後の課題と提案として、①現実との整合性、②運営上の課題など具体的に提案をしました。

さらに、具体例として、長峰の森、世田谷市民の森ネットワークにおける、住民発意の街づくりの具体的事実を示しながら、住民・地権者・自治体の協定の必要性、具体性などを強調しました。

第三部では四地域検討会会長、河野副市長、コーディネーター大橋氏の参加でパネルディスカッションが続けられました。この中では、各地域の課題、教訓がだされ、市側の今後の取り組みなども出され、また会場からの発言も加わり予定時間を大幅に超過して終了しました。

この日の中間報告で、平成17年の条例制定で進められた地域別街づくり方針は、昭和六十年の市民会議の意見のより発展されたものとして、今後街づくりの実践に向け、一つは道路、公園、下水道等の事業、二つには市街地再開発、土地区画整理事業、三つには地区計画、建築協定等の規制・誘導を進めることとなります。

それらの内容で地域は地域の将来像、その実現に向けての方策、必要事項を策定することとなります。策定のスケジュールは、さらに地域検討委員会の活動を推進し、平成21年度には第二回中間報告会、方針策定の決定をめざすこととなります。

当日の報告会は100人以上の参加で、運動の進展がみられました。大橋氏の講演でも今の街づくり委員会は基本的にはハードインフラの課題での策定で、今後はやはり各地域での報告でも出されたように、ソフトインフラ面での住民の意見が出てくることが予想される印象でした。

